

第5学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『世界とつながる日本の工業』

(教科書：『小学社会 5 上』 p. 132～141／学習指導要領：内容（3）ウ）

2. 小単元の目標

工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきと、それらを通じた世界各国との結びつきについて調べ、その特色や課題を捉える。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
・工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきに関心をもち、意欲的に調べている。 ・今後の貿易や海外生産の進め方について考えようとしている。	・工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ・日本の貿易や海外生産の特色と国民生活とを関連づけて、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、適切に表現している。	・地図や地球儀、統計などの資料を活用して、工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきについて必要な情報を集め、読み取っている。 ・調べたことを白地図や作品、文章などにまとめている。	・工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきを理解している。 ・工業生産を支える貿易や海外生産などの外国とのつながりが、国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

各家庭の自動車の所有状況はほぼ 100%で、複数の自動車を所有している家庭が半数を超える。しかし、自分の家で所有している自動車のメーカーや車種を言える児童は半数ほどで、自動車に対する関心が高いとは言えない。しかし、前小単元での自動車工場の見学を通して、日本の自動車メーカーの高い技術力に誇りを感じるようになった児童が多い。また、表や、地図、グラフなどの各種の統計資料を読み取る力は育ってきているが、自分で比較したり、関連づけたりしながら読み取る力は十分とは言えない。

(2) 教材について

本小単元で取り扱う貿易や海外生産を取り巻く状況は、刻々と変化する。かつては、原料を輸入し、加工した工業製品を輸出する、いわゆる「加工貿易」が日本の貿易スタイルであったが、途上国の発展や、原料となる資源の高騰などもあって、単純に「日本の貿易＝加工貿易」とは言えない状況になってきている。また、TPPの交渉などを通して、貿易や海外生産のグローバル化は、ま

すまず加速する傾向にある。このような、難しい状況の中で、これからの貿易のあり方について考える際には、複数の考え方を提示し、それぞれの考え方のメリットとデメリットを話し合わせて、多面的に考えられるようにさせたい。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小単元は、貿易や海外生産を中心に扱うことから、グラフや表などの統計資料をもとに考える場面が多くなる。このような学習内容の場合、一度に多くの情報を与えてしまうと抽象度が高くなり、学びが深まらないことが多い。そのため、必要な情報を抽出して与え、輸出と輸入、国内生産と海外生産、昔の貿易と今の貿易、というように、資料を比較して読み取る活動を重視することで、問題を意欲的に追究できるようにさせたい。また、身のまわりの輸入品について調べる活動を取り入れることで、実感を伴った学びとなるように配慮する。

5. 小単元の指導計画（総時数5時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	日本の自動車の輸出の様子を調べ、工業生産における世界各国との結びつきについて関心をもち、学習計画を立てることができるようにする。	○外国で販売される日本車の写真を見て話し合う。 日本の自動車は、外国へどのようにして輸出されているのだろう。 ○予想する。 ・船で運ぶ。 ・アメリカ合衆国への輸出が多い。 ○日本の自動車の主な輸出先、船長さんの話から、輸出相手国の情報や輸送の仕方について調べる。 ・10 か国以上の多くの国へ輸出される。 ・船を使い、一度に約 3000 台運ぶ。 ・予想どおり、アメリカ合衆国が多い。 ○地球儀を使い、アメリカ合衆国と、南アフリカ共和国へ船で輸送するルートを確認める。 ○単元の学習問題を設定する。 日本は工業生産を通じて、世界の国々とどのようにつながっているのだろう。	◎日本の自動車売るアメリカ合衆国の販売店（写真） ◎外国でも親しまれている日本の自動車（写真） ◎日本の自動車の主な輸出先（地図） ◎地球儀 ◇教科書の『学びの手びき』を使って、方位や距離の測り方を確かめる。 ◆工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきに関心をもち、意欲的に調べようとしている。 (関・意・態／発言・学習感想)

② (調べる) 【本時】	日本の自動車の輸出台数や海外生産台数の変化、世界に広がる日本の自動車工場について調べ、日本の自動車生産と世界の国々との結びつきについて考えることができるようにする。	○海外での日本車の販売台数が増えていることをグラフから読み取る。 ○自動車の輸出入と海外生産台数の変化をグラフから読み取る。 ・輸出はゆるやかに減っている。 ・海外生産が急激に増えている。 自動車の海外生産は、どのようにして行われているのだろう。 ○予想を立てる。 ・中国やアメリカで生産している。 ・その国の人に教えながら生産している。 ○海外生産について調べる。 ○海外生産が増えた理由を考える。 ○自動車の海外生産についてまとめる。	◎「海外での日本車の販売台数の変化」(グラフ) ◎日本の自動車の生産台数と輸出台数の変化(グラフ) ◇生産台数と輸出台数の文字を隠して提示することで、海外生産が増えていることをクローズアップする。 ◎世界に広がる日本の自動車工場と現地での生産台数(地図) ◆外国における自動車生産の様子について、グラフや地図などの資料から、必要な情報を読み取っている。 (技／発言・ノート)
③ (調べる)	日本の輸出入の状況を調べ、日本の貿易の特色を理解することができるようにする。	○身近な工業製品の輸入相手先を調べる。 日本の貿易は、どのように行われているのだろう。 ○日本の主な輸入品目の変化を調べる。 ・機械類が大きく増えた。 ・1位の石油は変わっていない。 ○日本の主な輸出品目の変化を調べる。 ・1位機械、2位自動車の順位に変化はないが、金額が大きく増えた。 ○日本の主な貿易相手国を調べる。 ○日本の輸出入の特色をまとめる。	◎日本の主な輸入品・輸入品の変化(グラフ) ◎日本の主な貿易相手先(地図) ◇1980年と2012年の輸出入品のグラフを比較することで、類似点や相違点に気づかせて、貿易の特色をつかめるようにする。 ◆日本の主な輸出入の品目や貿易相手先などを資料から読み取り、日本の貿易の特色について理解している。 (知・理／学習感想)
④ (調べる)	原材料の輸入や工業製品の輸出について調べ、日本の工業生産と貿易との関わりについて考えることができるようにする。	○前時の学習を想起する。 日本の貿易には、どのような特色があるのだろう。 ○貿易の特色を調べる。 ○輸送の様子を調べる。 ○日本の工業生産と貿易との関わりについて考える。	◎前時の学習資料 ◎主な燃料や原料の輸入の割合、主な工業製品の輸出の割合(グラフ) ◆日本の貿易の特色について調べたことをもとに、日本の工業生産と貿易との関わりについて考え表現している。 (思・判・表／学習感想)

⑤ (まとめ)	世界の貿易や日本の海外生産を取り巻く状況について知り、これからの貿易と海外生産のあり方について考えることができるようにする。	○世界の貿易額の変化を読み取る。 これからの貿易や海外生産は、どのように進めていけばよいのだろう。 ○貿易の自由化の動向を知り、良い面と悪い面を話し合う。 ○貿易や海外生産を進めていくうえで、大切だと思ふことを話し合う。 ○自分の考えを文章にまとめる。	◎世界の貿易額の変化（グラフ） ◎外国にある日本の会社の数の変化（グラフ） ◆貿易・海外生産を取り巻く現状や課題について調べたことを踏まえ、これからの貿易と海外生産のあり方について自分の考えを表現している。 (思・判・表／学習感想)
------------	--	--	--

6. 本時の指導（第2時）

（1）本時のねらい

日本の自動車の輸出台数や海外生産台数の変化、世界に広がる日本の自動車工場について調べ、日本の自動車生産と世界の国々との結びつきについて考えることができるようにする。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10	○前時の学習を想起する。 T：前の時間は、日本の自動車がどのようにして外国へ輸出されているのか学習しました。前の時間の2人のまとめを紹介します。(2人分の学習のまとめを紹介しながら前時の学習内容を振り返るとともに、学習感想に書くべき視点を示す。) ○「海外での日本車の販売台数の移り変わり」のグラフを見てわかることを話し合う。 T：どんなことがわかりますか。 C：1998年から2014年まで、どんどん販売台数が増えています。 C：1998年と、2014年を比べると、だいたい2倍に増えています。 C：ずっと販売台数が増え続けているんだけど、2011年は、販売台数が落ちています。 T：2011年は落ち込んでいるのですが、これは東日本大震災の年です。全体の変化を見ると、ほぼ増え続けていますね。約2倍になっていますね。	◎前時のまとめを書いた児童のノート ◎海外での日本車の販売台数の移り変わり（グラフ） ◇表題と、縦軸・横軸が示す単位を全体で確かめ、何の資料かをつかませてから、発問する。 ◇東日本大震災の影響については、深追いせず、全体の変化に目を向けさせる。

	○「自動車の輸出台数と海外生産台数の変化」のグラフを見てわかることを話し合う。 T: これは、自動車の輸出台数の変化についてのグラフです。赤い線と、青い線があります。どちらが輸出台数だと思いますか。(挙手をさせ、十分に興味を引きつけたあと、マスキングを外し輸出量が減っていることを伝える。) 「え～」って言ったね。どうして? C: 販売台数が増えているから、輸出も増えているはずなのに減っているからです。 C: 先生、その赤い方は何なのですか? T: (赤のマスキングを外す。) C: 海外生産? C: 外国で作ってるってこと? C: あ～そっか。日本で作って運ぶんじゃなくて、最初から外国で作ってるんだ。 T: 今日は、どんなことを学習していったらよいと思いますか。 C: 自動車の海外生産について調べたいです。 C: どんな国で海外生産が行われているか調べたらいいと思います。 自動車の海外生産は、どのようにして行われているのだろう。	◎自動車の輸出台数と海外生産台数の変化(教科書の資料をもとに作成したグラフ) ◇表題を隠し、赤と青のグラフのどちらが輸出台数なのか明示せずに、グラフを提示する。「輸出台数が増えているはずだ」という予想をくつがえす事実を強調することで、海外生産に興味・関心をもたせ、課題意識につなげる。
25	○予想を立てる。 T: どの国で海外生産が行われているか、予想を発表しましょう。 C: アメリカ合衆国です。前の時間に、アメリカにも日本の自動車メーカーの販売店があることを勉強したからです。 C: 中国で作っていると思います。ニュースで中国にある日本メーカーの工場を見たことがあるからです。 T: 前の時間に、南アフリカでも、日本車を使っている人の写真があったけれど、南アフリカでも作っているのかな? C: 作っていないと思います。遠いからです。	◇本時の学習問題は、既習内容や生活経験から、直接予想を立てることが難しいと思われるので、「どこで」「誰が」生産しているか予想するように指示する。 ◇前時との関連から、南アフリカでの現地生産について問うことで、輸出と海外生産との関連について目を向けさせるようにする。

C：遠いというのもあるけれど、そんなにたくさん売れていなかったの、南アフリカには輸出するだけだと思います。 T：前の時間に学習した輸出とも関係がありそうだということですね。では、調べるときに、輸出との関係についても調べられたら調べてみましょう。海外生産では、どんな人が作っているのでしょうか。 C：日本の人が外国に行って作っていると思います。 C：日本からも行っているけど、作るのはその国の人だと思います。 ○課題について調べる。 T：調べた結果を発表しましょう。 C：アメリカ合衆国だけの結果はなかったんだけど、アメリカとカナダを合わせて 425 万台作っています。 C：中国だけの結果もなかったんだけど、インドやフィリピンなどを合わせて 851 万台作っています。 C：私は、南アフリカでは作っていないと思っていたんだけど、作っていました。 C：前の時間で勉強した輸出先では、17 の国の数しか書いていなかったんだけど、今日の資料では、35 の国の名前が書いてあって、たくさんの国で海外生産されていることがわかりました。 T：前の時間の輸出先の地図と比べて、気づいたことは、ありますか。 C：色のついている場所が似ています。 C：アメリカとカナダには輸出していて、海外生産もしています。他の国も、輸出先で色がついている国と、海外生産で色がついている国がほとんど一緒です。 T：他にわかったことはありますか。 C：海外工場の青山さんの話から、作っているのは、外国人の人たちだということがわかりました。 C：青山さんのように、日本人が外国に行って、自動車を作る技術を教えているのだと思います。	◎世界に広がる日本の自動車工場と、現地での生産台数（地図） ◎海外の工場で働く青山さんの話 ◎日本の自動車の主な輸出先（前時に使った資料） ◆外国における自動車生産の様子について、グラフや地図などの資料から、必要な情報を読み取っている。 (技／発言・ノート) ◇意図的に輸出と海外生産の地図を比較することで、類似点を話し合い、日本車の販売を行っている国では、輸出と海外生産の両方で対応している場合が多いことを確かめる。
--	--

	T：ここまでのことをまとめます。外国で販売されている日本の車は、日本で作って輸出した車と、売る国で海外生産された車があることがわかりました。海外生産は、日本の人たちが外国の人たちに教えながら作っていましたね。全体の日本車の販売台数は増え続けているのに、輸出台数はあまり変わらない。海外生産台数は増え続けている。なぜでしょう。 C：外国のほうが、安く作れるからです。 C：日本で作ると船で運ばなければならないので、そのぶんのお金がかかるけど、外国で作ると運ばなくていいので、安くなると思います。 C：外国で作ると、その国に合わせた自動車が作りやすいからだと思います。 C：現地で作るので、現地の部品が使われて、部品工場の人にも仕事がまわります。 C：外国の人が、日本の優れた技術を学ぶことができます。 T：教科書の本文を読んで確かめてみましょう。 T：みんなが出した理由の他にも、「外国からつりあいのとれた貿易をしてほしい」という声があったと書いてありました。昔は、海外生産が少なく、輸出が中心だったのですが、それだと、日本ばかりがもうかって、外国の産業が育たないという問題がありました。だから、そういう声にも応えて、海外生産が増えてきたのですね。	◇これまでに発表されたことを整理し、わかったことを板書する。導入の資料で確かめた事実とも関連づけてもう一度その理由を問うことで、海外生産が増えている理由を考えられるようにする。 ◇海外生産が増えた理由について話し合ったことを、教科書を資料としながら検証する。
10	○学習のまとめをする。 【期待する児童の反応】 自動車の海外生産は、販売する国の人に日本人が教えながら行っていることがわかりました。また、自動車の生産には、輸出と海外生産の両方があることがわかりました。 海外生産をすると、その国の人たちの仕事が増えるから、相手の国のためになると思いました。	◇この時間では、海外生産が相手の国に与えるメリットを中心に扱い、貿易と海外生産の均衡を保つという視点は、この後の時間で取り扱う。